

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION



次世代型海洋センター艇庫の 先進的活用と 地方の魅力創生

ANAN

KAMI

TOGITSU

2019~2021年度 報告書



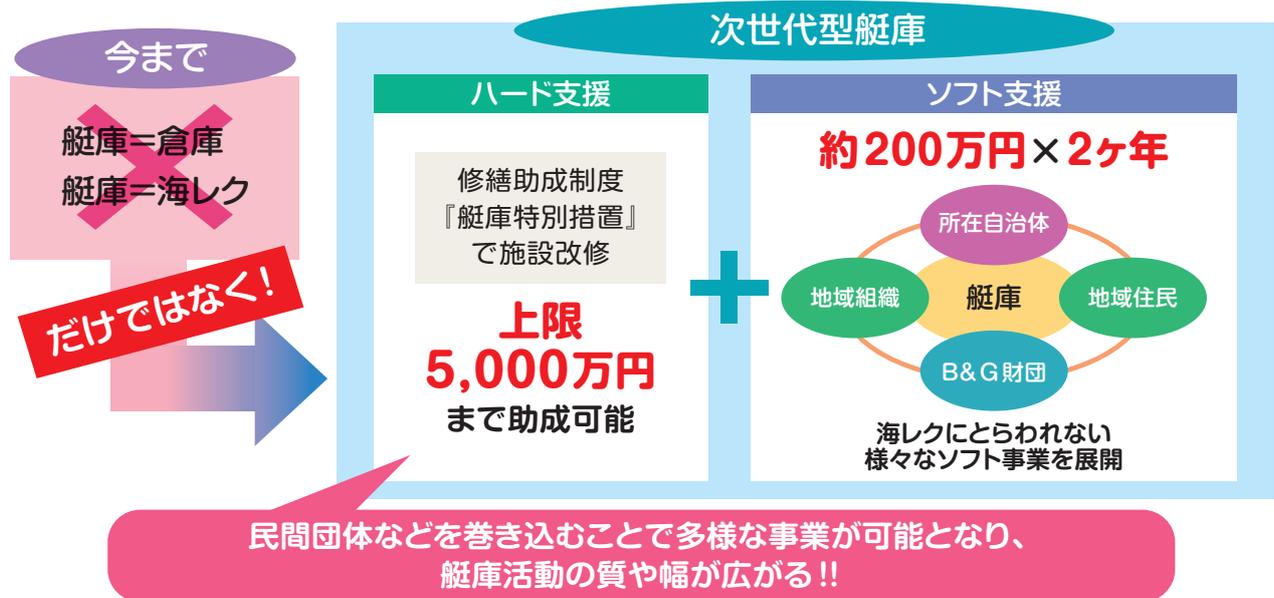
公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

次世代型海洋センター艇庫を活用した先進的活用事業について

事業概要

B&G財団は、これまでの海洋性レクリエーション体験施設としての「艇庫」だけでなく、「艇庫」を核とした複合的な活動を推進しています。

そこで、全国のモデルケースとして修繕助成制度の「艇庫特別措置」を活用し、艇庫の大幅な改修を行った海洋センターにおいて、自治体とB&G財団、そして、地域の民間団体などと連携を図り、改修前後の住民周知イベントや、海レクにとられない様々な教室を企画・実施することで、先進的な利活用を図る事業です。



ハード支援 修繕助成制度 艇庫特別施設整備

この制度は、艇庫の多機能化を目的とした建替え・移設・増築を行う場合には、舟艇及び器材購入費も含め5,000万円（助成率上限60%以内）を支援するものです。

本来は2018年度から5か年限定の特別措置でしたが、2022年度より期間限定を撤廃し、助成金額が**3,000万円から5,000万円**に増額しました。



ソフト支援

ソフト支援では、改修前後の住民周知イベントや、海レクにとられない様々な教室の実施費用を2か年にわたり支援しています。右記は過去に支援した費用の一例です。



次世代型艇庫事業 実施センター

初年度に施設改修を行い、2年目までソフト事業の支援を行っています。3年目は事業費の支援は無くなりますが、担当者を配置し、運営のサポートをしています。

	2019	2020	2021
徳島県阿南市 (2019~2021)	ハード支援 ソフト支援		運営サポート
宮城県加美町 (2019~2021)	ハード支援 ソフト支援		運営サポート
長崎県時津町 (2020~2022予定)		ハード支援 ソフト支援	

各実施センターでの取り組み内容

徳島県阿南市那賀川 B&G 海洋センター

海を活用した
魅力発信



艇庫を移設するとともに研修室を備え、海を活用した魅力発信と自然体験を交えた複合的な活動を目指し、交流人口増加を目的とした大規模イベントの実施や一年中開催している「通年型教室」などを実施。

宮城県加美町中新田 B&G 海洋センター

インクルーシブ
な活動



施設のバリアフリー化や多目的室を新たに増築することで障がい者への自然体験活動の提供とパラスポーツの東北拠点化を目指し、障がい者への理解促進を促す学生向けイベントや指導者向けのパラカヌーサポート研修会などを実施。

長崎県時津町 B&G 海洋センター

海洋教育の
拠点



多目的室を増築し、学校教育と連携した「里海大村湾」を活用した海洋教育推進の拠点化に向けた海洋教育イベントの実施や学校教員向けの体験会などを実施。

参考 2017-2018 鹿児島県天城町モデル事業

鹿児島県天城町 B & G 海洋センターでの「海洋センター（艇庫）を活用したモデル事業」にて、海レクにとらわれない様々な事業を展開したことを契機として「次世代型艇庫事業」を開始しました。



艇庫利用者
人数の推移

2016年度
1,091人

2017年度
施設改修

2018年度
8,531人

2019年度
11,276人

施設概要

徳島県阿南市那賀川B&G海洋センター

建設期：3期 1978年度 5類

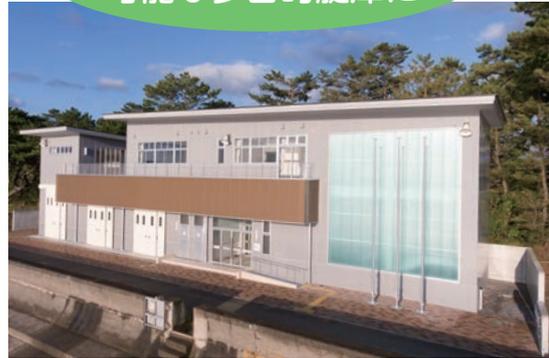
2018年度改修工事内容

工事内容	海洋性レクリエーション及び地域コミュニティの活性化に寄与する複合型施設として旧艇庫を廃止し、新たに新設
工事総額	150,533,000円
修繕助成金額	30,000,000円

他団体との連携が可能な多目的艇庫に



旧艇庫



北の脇海水浴場前の新艇庫

阿南市



配備器材・備品

器材の種類	詳細
カヌー	シングル・ペアカヌーを合計10艇 ※パドルなどの必要備品を含む
SUP	ハードタイプのSUPやBIG SUPを合計10艇 ※パドルなどの必要備品を含む
レジャー	アクアボールやバナナボート、浮島など
救助艇	救助艇・マリンジェットなど

テーマ

海を活用した魅力発信と 自然体験を交えた複合的な活動

交流活性化

ビーチセッションフェスティバル



阿南市内外の「交流人口」増加を目的に北の脇海水浴場組合などの外部団体と協力し、カヌー体験や水除トランポリンなどの海レク体験やステージで地元の子どものダンス発表会などを合わせて開催しました。

内 容	スポーツ体験会、地引網、ステージイベント、ビーチサンダル飛ばし、宝探し 等
連携団体	中林漁協協同組合、北の脇海水浴場組合 他

交流活性化

複合型イベントBlueとGreenで繋ぐビーチ&カルチャー



艇庫の目の前に広がる北の脇の海と砂浜ではSUPレースや砂場で行えるレクリエーションを行い、艇庫内では地元企業などの協力で「ドローン教室」やボッチャ体験を行い、様々な活動ができる「うみてらす北の脇」ならではの海と陸を合わせた複合型イベントを開催いたしました。普段舟艇を収納している艇庫内にてジャズライブを行うなど艇庫で行える活動が幅広いことを地域の方に周知しました。

内 容	【海】:SUPレース、SUP・カヌー体験 他 【陸】:ドローン体験、ウクレレレッスン、ジャズライブ 他
連携団体	徳島県障がい者スポーツ協会、中林漁協組合婦人会、日亜化学工業(株)ドローン部 他



地域コミュニティ

通年型教室



新艇庫「うみてらす北の脇」には研修室やウッドデッキがあり、研修室には簡易キッチンが備え付けられています。それらの施設を活用し、阿南市では本来なら夏季にしか開館しない艇庫を通年で開館し、様々な教室を開催しています。

〈一部紹介〉

	事業名	内 容
海に親しむ	海辺のまなびや	海や海の生物等の不思議を調べ、海に対する知識を深める。
	干物づくり	魚を実際に捌くことにより、魚に対しての知識を深め、海に対する理解を持ってもらう。
地域コミュニティ	お菓子作り教室	お菓子作りを気軽に行う教室
	親子ドローン教室	ドローンがどのような仕事をしているのか、またどのように自分たちの生活に関わっているのかを知り、また実際に飛ばしてみる。
	Zumba教室	全国的に人気上昇となっているダンスと運動を併せたズンバを行う。



事業成果

誰もが海に親しめる次世代型艇庫として、4つのコンセプトを掲げ利用促進を図り、夏季にしか利用されることのない艇庫を一年を通して利用できる施設としました。

海洋性レクリエーションだけではなく、多目的な活動を推進することのできる機能を付加した施設。

機能

期間

オフシーズンでも年間を通して多目的な利用ができる施設。

様々な団体と交流し、事業の充実を図る。

他団体

地域づくり

地域内の活性化及び地域外からの交流人口の増加促進を目指し、まちづくりのシンボリックな存在として施設を位置づける。

機能

海レク活動は、2020年度から「海洋センタースクール」、2021年度から「海の運動会」といったイベントを増やし、艇庫本来の機能である海レク体験の拠点としての機能を拡充しています。また、「通年型教室」という形で研修室を使用したドローン教室や干物づくり、お菓子作り教室などを行い、現在も種類を増やしながら月に4~5回のペースで多目的な事業を開催しています。

	2019年度	2020年度	2021年度
海レク 事業	・ビーチセッション フェスティバル ・オープニングイベント	・海洋センタースクール ・海レク体験 (週1~2回)	・海の運動会 ・海洋センタースクール ・子どもマリンスクール ・海レク体験 (週2回)
多目的事業	通年型教室 10種類	通年型教室 13種類	通年型教室 16種類

期間



移設後の開館当初から冬季も開館し、「通年型教室」や囲碁・将棋サロン等は、オフシーズンでも賑わっています。

他団体

大規模イベントや通年型教室等の多目的な活動まで様々な団体と連携し、多様な事業を展開しています。



キャンセル待ちが出るほど人気の高い地元企業である「日亜化学工業(株)」と協力したドローン教室

地域づくり

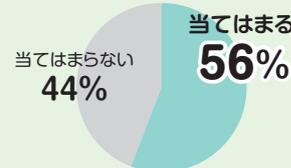
艇庫利用者人数の推移



うみてらす北の脇が本格的に始動した2020年度以降がコロナ禍であったにもかかわらず、利用者人数を大きく伸ばし、「利用者間交流」についても利用者アンケートより右のグラフのように今後が期待できる結果となりました。

◆「うみてらす北の脇」で講師をする方から、アンケートでは「教室参加者が自身のイベントに来てくれた。(フラダンス教室 講師)」
「阿南市内だけでなく、市外にも呼ばれるようになった(ドローン教室 講師)」などの声をいただいております。

「うみてらす北の脇」をきっかけに他の利用者の方と話すようになった



「うみてらす北の脇」をきっかけに他の利用者の方と他の場所でも交流するようになった



阿南市那賀川B&G海洋センター艇庫では、他団体と連携し、地域に愛される海レクおよび地域のコミュニティの拠点として活用していきます！

施設概要

宮城県加美町中新田 B&G 海洋センター

建設期：28期 1999年度 1類

2019年度改修工事内容

工事内容	事務室及び多目的ルーム増設、施設バリアフリー化、 障がい者用シャワー室・多目的トイレ等改修
工事総額	79,205,000円
修繕助成金額 (多機能化に係る備品代を含む)	30,000,000円

改修前後の写真



艇庫改修・増築前



艇庫改修・増築後



シャワー室改修



玄関のスロープ設置



増築後の多目的室



多目的室の一角にキッズスペースの新設

配備器材・備品

器材の種類	詳細
カヌー	障がい者用のカヌーやシングルカヌーなどを含め12艇 ※パドルなどの必要備品を含む
救助艇	救助艇用ゴムボート
その他	マットやクッション材の積み木などの室内用遊具

テーマ

障がい者への自然体験活動の提供と

パラスポーツの東北拠点化

障がい者

「障がい者カヌー」サポートスタッフ養成講習会

障がい者への「海洋性レクリエーション体験」を提供できる指導員を育成し、更なる海洋性レクリエーション体験機会の拡大とともに、障がい者スポーツの普及、体験格差の是正を図るための講習会を実施しました。

町内のみならず東北ブロックの研修会としても実施しており、障がいのある方の受け入れ可能なセンターを増やすことにも貢献しています。



障がい者

B&G インクルーシブカヌー体験会



サポートスタッフ養成講習会の翌日にインクルーシブカヌー体験会を実施しており、講習を受けたスタッフが体験会で実習を兼ねてサポートすることで、障がいのある子供たちを安全に受け入れることができます。中々カヌーを体験する機会の少ない子供たちや保護者から喜びの声を頂いています。

教育

インクルーシブスクール

地域の子どもたちにパラスポーツの体験を通して多面的・多角的な道徳的価値を見出してもらうとともに、「共生社会」の実現に向けた相互理解を深める機会とするもので、2020年度から地元の中中学生を対象に実施しています。

※この事業の成果は次ページをご参照下さい。



多目的

リバーサイドフェスティバル in 加美



2019年度は、バルセロナ五輪 金メダリストの岩崎恭子さん、宮城県の住みます芸人のバクコメをお呼びし、スポーツとお笑いのチカラで陸上でも、水上でも楽しめるインクルーシブなイベントを実施しました。

新型コロナの影響で、2020年度は中止、2021年度は規模縮小となりましたが、カヌー体験やボッチャ・ハンドバイク体験のほか、白杖体験、ブラインドお買い物体験など障がい者理解の促進に努めました。

加美町中新田B&G 海洋センター艇庫では、今後も、共生社会の実現を目指し、誰もが一緒に楽しめるような拠点づくりを行っていきます！

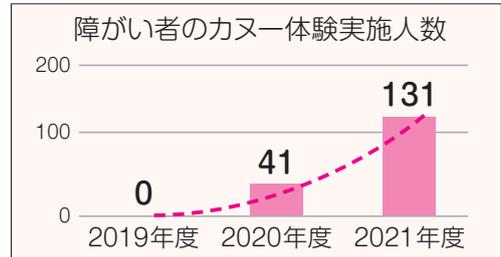
事業成果

～障がいのある方にも親しんでいただける拠点に～

障がい者への自然体験活動の提供とパラスポーツの東北拠点化をテーマに取り組んできた加美町では、2021年度に東京パラリンピックに出場するチリのパラ選手団を受け入れたこともあり、表1にある通り、多くの障がいのある方々にもカヌーに親しんでいただける拠点となりつつあります。



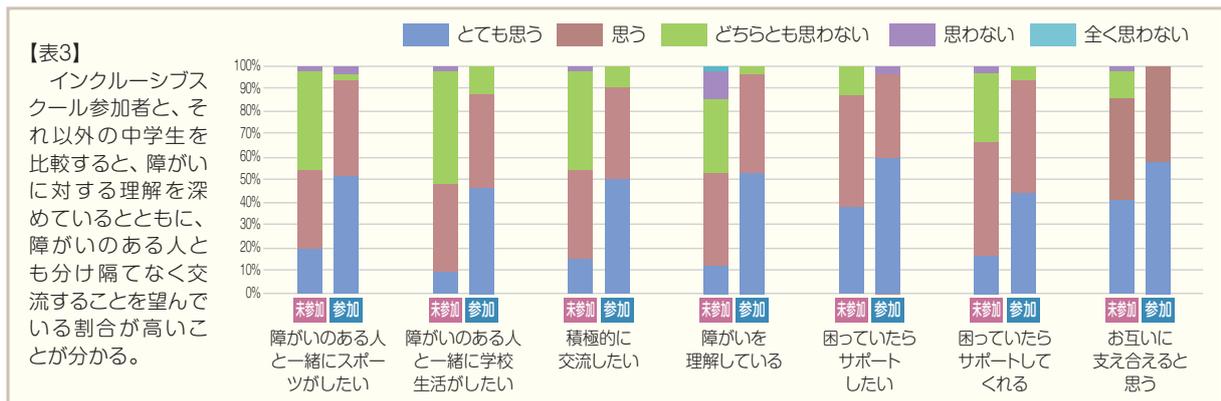
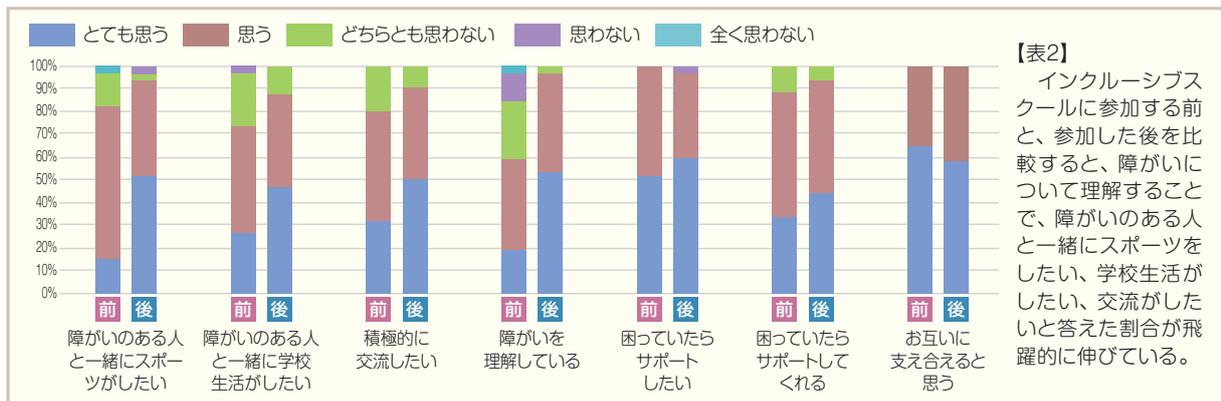
【表1】



～地元住民が障がいについての理解を深め、共生社会を実現するために～

パラ選手団の受け入れを契機として、共生社会実現に向けて、2020年度から地元の中学生を対象にした「インクルーシブスクール」を実施してきました。

このインクルーシブスクールでは、障がいについての理解や、パラスポーツの体験を行うとともに、障がい者の支援ができるところまでを目的としており、県内でも先駆的な取り組みとなっています。

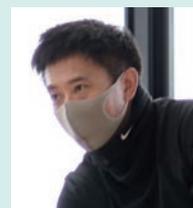


インクルーシブスクール 担当講師 コメント

東北文化学園大学
現代社会学部現代社会学科 准教授 佐藤 敬広 氏

東京2020パラリンピックのムーブメント事業が全国的に展開され、各地でパラスポーツ体験会などは盛んに行われるようになってきたものの、いわゆる単発の体験会や講演会の形式で行われることが多いため、実際に学校の部活動や教育の中で取り組まれることはまだまだ多くありません。その中で「中学生が指導者や支援者の立場に立ちながら継続的に学び実際に指導・支援する」というこの事業の試みは、全国的にも先駆的な取り組みになったのではないかと考えています。

今後このような取り組みが、学校教育や地域スポーツとの連携により継続的に行われること、そして、パラスポーツやインクルーシブスポーツの気運が高まることを期待しています。



施設概要

長崎県時津町 B&G 海洋センター

建設期：17期 1989年度 5類

2020年度改修工事内容

工事内容	多目的室増築、外壁・屋根補修工事、2F事務室の天井・壁改修、トイレ・シャワー更衣室改修
工事総額	51,161,080円
修繕助成金額 (多機能化に係る備品代を含む)	22,000,000円

改修前後の写真



配備器材・備品

器材の種類	詳細
SUP	インフレータータイプのSUPやBIG SUPを合計8艇 ※パドルなどの必要備品を含む
救助艇	救助艇用ゴムボート
その他	テーブル・マット・ホワイトボード・スクリーンなど

テーマ

「里海 大村湾」を活用した学校教育での 海洋教育推進の拠点化

地域住民向け

2020マリンデーフェスタinとぎつ

新たに多目的室が出来ることを地域住民に周知するため、今後実施していく海洋教育の「海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する」をテーマに地域住民向けイベントを実施しました。



新型コロナウイルスの影響で午前・午後の2部制に分けるとともに、人数を各回100名に限定したものとなりましたが、未就学児から高齢の方まで、海に入らなくても、船を作ったり、海クイズをしたりと、様々な形で海に親しんでもらう機会となりました。



地域の子供向け

2021大村湾の生物観察会



地元の子供たちを対象に、地元の海、大村湾に興味関心を持ってもらうための教室を開催しました。当初は夏に無人島に渡り、シュノーケルで水中観察をする予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で、冬に延期となったため、水中ドローンを使って当日の生の大村湾の様子を観察するとともに、大村湾で取れたばかりの生き物に触れるタッチプールを実施し、「こんなにきれいな海だったなんて」「もっと海のことを知りたい!」などの声をいただきました。



教員向け

学校教育での海洋教育の導入に向けた教員向け体験会

時津町内の小中学校に勤める教員の皆さんを対象に、艇庫体験会を実施しました。水辺の安全について艇庫前の水面で学び、カヌーやSUPの漕ぎ方のレクチャーを受けた後は、町内の無人島に向けて約2キロのツーリングを開始。子供に帰ったように無邪気に楽しむ先生方に、海に触れる楽しさ、海から学ぶことの多さを実感していただいた研修会となりました。



学校向け

学校教育での海洋教育授業



時津町内にある時津北小学校5年生および鳴北中学校2年生を対象に、海洋教育授業が行われました。

小学生を対象とした授業では、目の前の大村湾の特徴や、そこに生息するスナメリなどのお話を目を輝かせる子供たちの姿がありました。

中学生対象の授業では、SDGs学習も兼ね、豊かな海を守るために何が出来るだろうか?と色々な意見が交わされました。



**時津町B&G海洋センター艇庫では、今後も、海洋教育の取り組みを推進し、
地元が好き、地元の海が好きという子供たちを育成していきます!**

地域海洋センター次世代型艇庫事業 実施センター

長崎県時津町
B&G 海洋センター



宮城県
加美町中新田
B&G 海洋センター



徳島県
阿南市那賀川
B&G 海洋センター



次世代型海洋センター艇庫の先進的活用と地方の魅力創生

発行日：2022年3月31日 1,200部

編集・製作：公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

〒105-8480 東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35森ビル 9F

Tel 03-6402-5310 (代表) Fax 03-6402-5315



<https://www.bgf.or.jp/>